

Eスクエア・アドバンス
「IT活用教育推進プロジェクト」

不登校・家庭学習支援 「ホップ・ステップ・ジャンプ」

先進的教育情報環境整備推進協議会
(e-Kokoro協議会)



ねらい

- 課題
- 有効性
- 成果目標
- 評価方法



ねらい

□課題

□有効性

□成果目標

□評価方法

Keyword

ITを活用した
主体的学習の支援
～不登校児童・生徒の
社会的自立を目指して～



- 松原市教育支援センター(チャレンジルーム)に参加できる子どもは、不登校児童生徒の中でも一部にすぎない
- その他の子どもたちへの対応(教員とのメールのやりとり、教員による家庭訪問、友達による家庭訪問、スクールカウンセラーによるカウンセリングなど)には、時間的、空間的制約がある
- 外からの働きかけの結果教室に復帰ができて、復帰後の授業内容についていけずに落ちこぼれていく
- 高度情報通信ネットワーク社会における人材育成分野(教育)でのITの活用は、不十分な支援体制や、有効活用できるコンテンツが少ないことを理由のひとつに、活用が定着していない
- ITの利便性を教育現場で活かし、時間や空間にとらわれず不登校児童生徒が主体的に学習することのできる、安価なe-ラーニングシステムの開発が必要



□課題

ねらい

□課題

□有効性

□成果目標

□評価方法

Keyword

既存の人的支援ネットワーク
を支えるための
新たなe-ラーニングモデル

学習履歴の分析活用による
家庭学習、教科学習の支援



- 現在、松原市ではすでに不登校児童生徒への支援体制(全市的・総合的な支援のネットワーク)が整っている
- 本事業におけるe-ラーニングシステムをこの人的支援ネットワークの基盤として利用することで、不登校児童生徒が自宅で授業内容に沿った自主学習が可能になる
- 本e-ラーニングシステムを利用することで、教室からの遠隔授業を受けることができ、教室を身近なものに感じることができる
- e-ラーニングは学習を始めたいときにいつでも取り組むことができる
- ネットワークを通じてどこからでも利用できるため、家庭学習の場で活用することができる
- e-ラーニングシステムの学習履歴を分析活用することにより、子どもの学習実態に沿った適切な指導、アドバイスを実現できる
- 本e-ラーニングシステムは、学校内の教科学習の場でも活用することができる



□有効性

ねらい

□課題

□有効性

□成果目標

□評価方法

Keyword

教育委員会、学校を含めた
地域コミュニティの支援



- 不登校児童生徒の家庭学習を学校での学習と連携させ、教室復帰後の学力不安を軽減させる
- デジタルコンテンツを提供する際の共通基盤制作ガイドラインを作成し、標準化モデルとしてWeb上で公開する
- 情報機器の整備に関して、リサイクルパソコン、LINUXなど安価な機器の活用についての要件調査を行い報告書にまとめる



□成果目標

ねらい

- 課題
- 有効性
- 成果目標
- 評価方法

Keyword

システムの利用状況や、
学識経験者・専門家・
教員から収集した意見
などを分析



実施概要

□開発

不登校児童生徒の家庭学習を支援しながら、無理のない教室復帰を目指すe-ラーニングシステムの開発

□実践

松原第七中学校、松原市教育支援センター(チャレンジルーム)、「心の窓にアクセス」事業実施児童生徒をはじめ松原市内全ての不登校児童生徒を対象に実施を予定

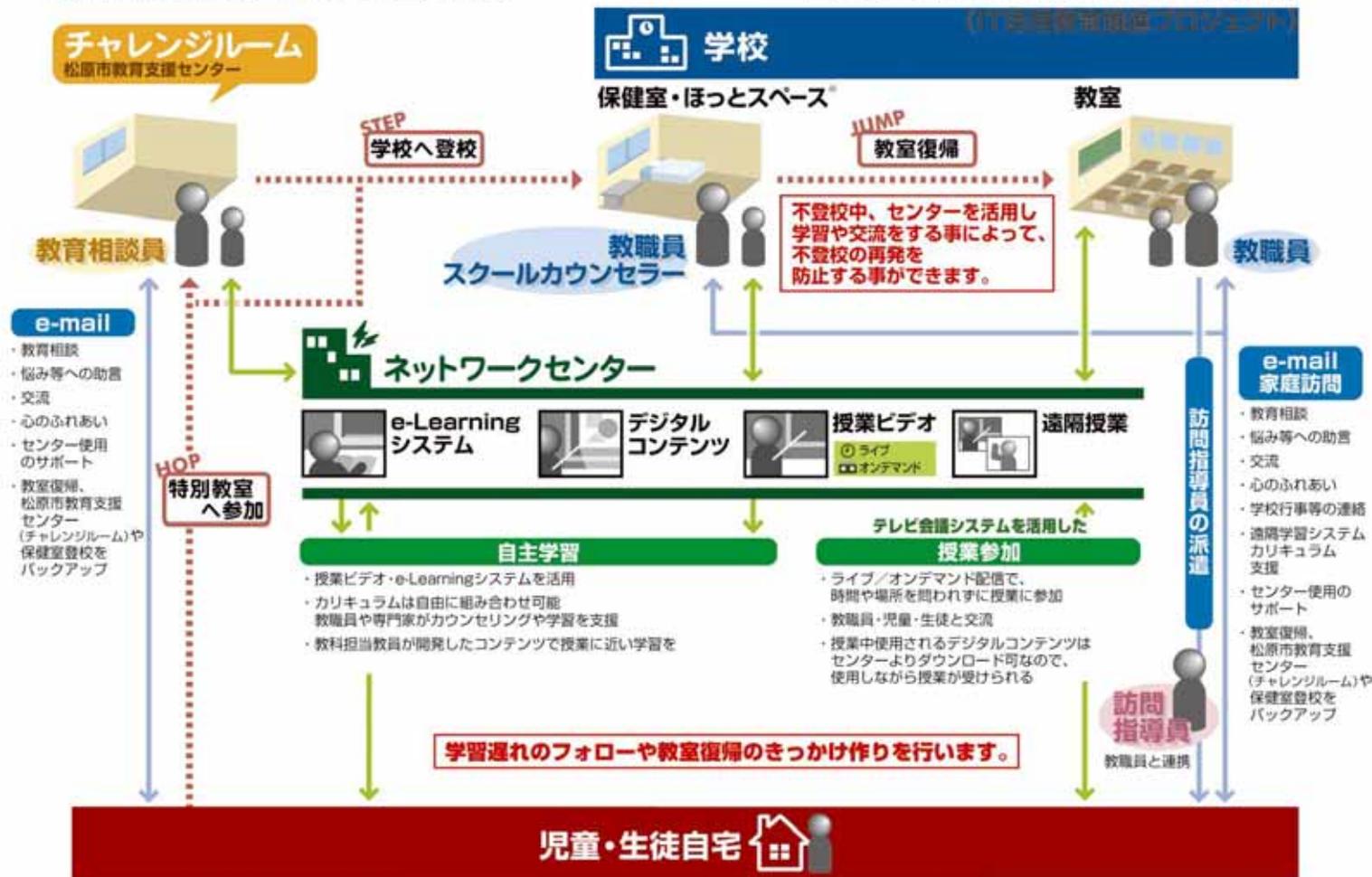


不登校・家庭学習支援—ホップ・ステップ・ジャンプ:イメージ図

e-Kokoro project

松原市不登校児童・生徒総合支援会議
文部科学省「研究開発学校」指定 松原第七中学校

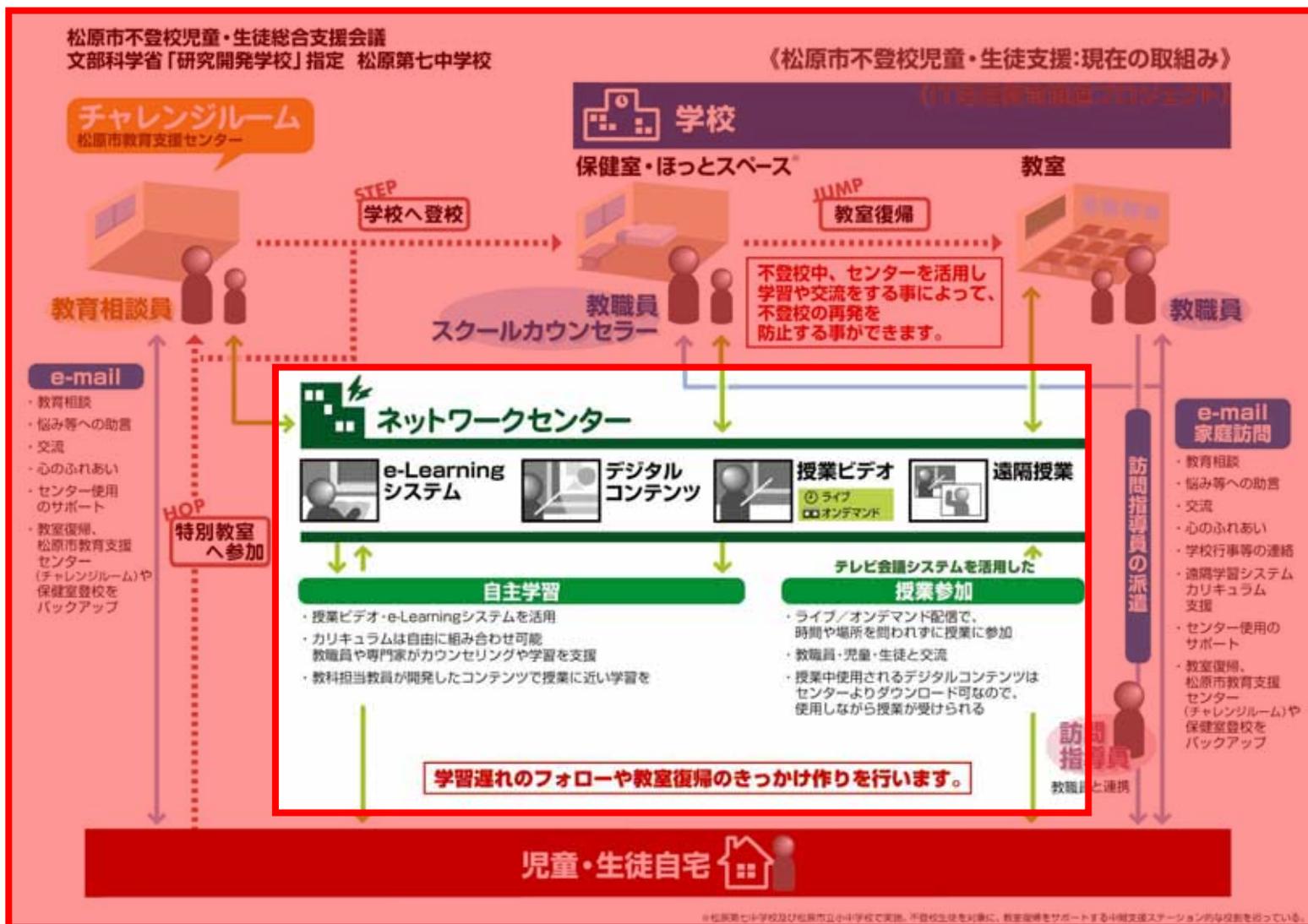
《松原市不登校児童・生徒支援:現在の取組み》



※松原第七中学校及び松原市立小中学校で実施。不登校生徒を対象に、教室復帰をサポートする中継支援ステーションの導入を図っている。

不登校・家庭学習支援—ホップ・ステップ・ジャンプ:イメージ図

e-Kokoro Project



進捗状況

9月14日	第1回事務局会議
9月22日	第1回コンテンツ開発グループ会議
9月29日	第2回コンテンツ開発グループ会議
10月4日	第1回全体会議
10月22日	第3回コンテンツ開発グループ会議
11月17日	第4回コンテンツ開発グループ会議
12月上旬	第2回事務局会議(予定)
1月上旬	第5回コンテンツ開発グループ会議(予定)



第1回全体会議



不登校・家庭学習支援
ホップステップジャンプ

□ 第1回全体会議

会 場:松原市役所 8F 大会議室A 司 会:松原市教育委員会 学校教育部 参事 岡 修

出席者:(敬称略)

<コンピュータ教育開発センター>

ネットワーク利用促進部 部長 山中計一

ネットワーク利用促進部 指導課長 南 仁

ネットワーク利用促進部 企画課長 末野高樹

<プロジェクトリーダー>

大阪大学大学院 人間科学研究科 教授 菅井勝雄

先進的教育情報環境整備推進協議会 伊原和夫

<学識経験者>

大阪大学大学院 人間科学研究科 教授 前迫孝憲

東京学芸大学 障害児教育学科 教授 小池敏秀

佛教大学 教育学部 教育学科 助教授 黒田恭史

<専門家>

株式会社イングラムジャパン 笹田能美

<教育委員会>

大阪府教育委員会事務局 教育振興室

教務課教育計画グループ 主任指導主事主査 繁内一之

大阪府教育委員会 学校教育部 部長 菅原寛

松原市教育委員会 学校教育部 教育推進課 課長 林和広

松原市教育委員会 学校教育部 教育推進課

指導主事 永尾明

松原市教育委員会 学校教育部 教育推進課 吉川

松原市教育委員会 学校教育部 教育推進課 野口

<ネットワークセンター>

e/Kokoro Media Center 田中秀樹

<開発・デザイン>

株式会社イングラムジャパン 高桜陽子

放送芸術学院 高橋

<開発・システム>

大阪大学大学教育研究実践センター 助手 松河秀哉

大阪大学大学院 人間科学研究科 学生 奥林泰一郎

大阪大学 人間科学部 学生 岡田香菜子

<開発・授業カリキュラム作成>

松原第七中学校 教頭 系魚川

松原市立布忍小学校 教頭 北林

松原市立布忍小学校 教諭 和田

<情報機器・回線整備>

NTT西日本大阪支店 嫁阪

NTT西日本大阪支店 横山

シャープシステムプロダクト 岡田

富士電機ITソリューション株式会社 池田

株式会社アキト 安達

<コーディネート>

先進的教育情報環境整備推進協議会 藤井晶美

先進的教育情報環境整備推進協議会 吉田沙耶香

ロコンテンツ作成グループ会議



不登校・家庭学習支援
ホップステップジャンプ

コンテンツ開発状況

内容は、現場の教員を中心としたコンテンツ開発会議で決定。決定した内容をもとに、現在制作作業中。

<コンテンツ詳細> 正の数と負の数

(1) 正の数と負の数

反対の性質を持つ数*1(0(基準点)を持つ身近な事例)

正の数、負の数

数の大小

(2) 加法と減法

同符号の加法*2(正負の数の「てんびん」)

異符号の加法

減法

加法と減法の混じった計算*3(「トランプゲーム」)

(3) 乗法と除法

乗法*4(時間と道のりの位置関係)

除法

いくつかの数の積

四則の混じった計算



実践

- ・対象生徒は現在2名。(中学1年生男子 中学3年生男子)
- ・1月下旬より実践予定。
- ・学習の流れ

授業ビデオで例題を理解

練習問題(PDF) + 解答

教員・訪問指導員が履歴をチェック

直接訪問またはメールで学習をフォローアップ



課題・問題点・対策

対象生徒の選定について

対象生徒は不登校生徒（家庭・チャレンジ・保健室）。担任・家庭・教育委員会が連携した丁寧な対応が必要。

不登校から復帰した子供のフォローアップや、チャレンジルームでの学習支援としての活用法も視野に入れて、今後も継続して対象者の選定をしていく。

不登校・家庭学習支援 ホップ・ステップ・ジャンプ チーム

コーディネート 先進的教育情報環境整備推進協議会 (e/Kokoro協議会)

不登校・家庭学習支援—ホップ・ステップ・ジャンプ
松原第七中学校及び松原市立小中学校において実証実験を実施

評価・助言 学識経験者

菅井勝雄 大阪大学大学院 人間科学研究科 教授
前迫孝憲 大阪大学大学院 人間科学研究科 教授
小池敏秀 東京学芸大学 障害児教育学科 教授
田中博之 大阪教育大学 学校教育講座 助教授
黒田恭史 佛教大学 教育学部教育学科 助教授
今井亜湖 岐阜大学 技術教育講座 助教授
中村智彦 日本福祉大学 経済学部経済学科 助教授
斎藤立滋 大阪産業大学 経済学部 講師

専門家

森川 治 独立行政法人 産業技術総合研究所
人間福祉医工学研究部門
認知的インタフェースグループ
笹田能美 株式会社イングラムジャパン
代表取締役

教育委員会

成山治彦 大阪府教育委員会事務局教育振興室 室長
島 善信 大阪府教育委員会事務局教育振興室
副理事兼教務課長
繁内一之 大阪府教育委員会事務局教育振興室
教務課教育計画グループ
主任指導主事兼 (計画総括)
菅原 寛 松原市教育委員会学校教育部 部長
林 和広 松原市教育委員会学校教育部教育推進課
課長
岡 修 松原市教育委員会学校教育部 参事
永尾 明 松原市教育委員会学校教育部教育推進課
指導主事

ネットワークセンター

e-Kokoro Media Center
管理者 田中秀樹

全体統括 プロジェクトリーダー

先進的教育情報環境整備推進協議会
副理事長
伊原和夫

開発

デザイン
株式会社
イングラムジャパン
放送芸術学院

システム
松河秀哉
大阪大学大学院教育実践
研究センター 助手
有限会社クロスソフト
NPO法人
記録と表現とメディア
のための組織
奥林泰一郎
大阪大学大学院
人間科学研究科 学生
岡田香葉子
大阪大学大学院
人間科学研究科 学生

授業カリキュラム作成

松原市情報教育推進会議ワーキングチーム
教職員11人
松原市不登校児童生徒総合支援会議
教職員10人
松原市立松原第七中学校研究開発企画委員会
松原第七中学校教職員12人

※詳細は別紙を参照下さい

情報機器・回線整備

西日本電信電話株式会社

購入予定先

- 株式会社NTT
マーケティングアクト関西
- 富士電機ITソリューション
株式会社
- シャープシステムプロダクト
株式会社
- 株式会社アキト
- (リサイクル情報機器調達)
・日本IBM株式会社



- e-ラーニングソフトのフリーウェア化
- ホームページからの情報提供および質問受付
- 新聞等による報道発表
- 学会、研究会等での発表
- 学校研究発表会での成果発表
- e-Kokoro協議会参加教育委員会へのセミナーの開催



以下のような機能を有したe-ラーニングシステムを開発する。また、システムの利用に際する注意事項も合わせて提案する。

- オンデマンドで配信される授業ビデオ
- 授業ビデオに対応したダウンロード可能なデジタルコンテンツ(学校の授業でも使用)
- 教室とチャレンジルームをつなぐテレビ会議システム
- 学習履歴を確認しながら、担当教員や訪問指導員が連携して家庭学習の指導に活用可能



ありがとうございました。



2004.11.23

先進的教育情報環境整備推進協議会

(e-Kokoro協議会)